

第1回鈴鹿市上下水道事業経営審議会

○日時：令和7年1月31日（金） 13：30～15：50

○場所：鈴鹿市上下水道局 本館3階 第4会議室

○出席者：

[委員] 6名 麻生 高志、片岡 健二、木村 喜美子、柴 健次、廣瀬 直正、
水野 敦子

（欠席）1名 齊藤 由里恵

[事務局] 上下水道事業管理者、上下水道局次長、経営企画課長、経営企画課経営グループリーダー、経営企画課経営グループ員3名、経理課長、営業課長、水道工務課長、水道工務課計画グループリーダー、下水道工務課長、水道施設課長

○傍聴者：なし

○内容：次のとおり

1 開会

上下水道事業管理者の挨拶

2 会長及び副会長の選出

委員の互選により、次のとおり決定した。

会長 柴 健次 委員

副会長 片岡 健二 委員

3 諮問

鈴鹿市上下水道事業の経営の在り方について諮問し、上下水道事業管理者

から会長に諮問書を手交した。

(上下水道事業管理者退席)

4 議事

(1) 会議運営に関する事項について

事務局から「資料1 会議運営に関する事項について」について説明がなされ、会長が意見を求めたが、特に意見は無く、原案どおり承認された。

(2) 鈴鹿市の水道事業の概要と経営戦略（改定版）の検証（水道事業）

事務局から「資料2 鈴鹿市の水道事業の概要と経営戦略（改定版）の検証（水道事業）」の「1 本市の水道事業の概要」、「2 経営戦略（改定版）の概要」についての説明がなされ、会長が質疑・意見を求めた。

《質疑・意見》

【麻生委員】

3ページの表下の注釈「河田水源の深井戸1基と小岐須水源、庄内第1水源は、運用を休止しています。」について、どういう経緯で運用休止となったのか。

【事務局】

河田水源は1号から5号まで5つの井戸があり、そのうち5号水源について、ほとんど水がくみ上げられない状態になって、いろいろな手を尽くしたが復旧しなかったため、休止している。

その他の山本水源、小岐須水源、庄内第1水源は、北西山間部の表流水を取水する施設であるが、雨天時に濁水が発生したときは、取水を停止していた。その間の配水は、三重県企業庁の三重用水による運用を行っていたが、取水による運用を再開するには数週間を必要としていた。また、近年の集中豪雨により取水口に土石が堆積して取水できなくなることが頻発し、その復旧に数か月を必要としていたこと、これらの課題を解決する有効な手段がなかったことから、不安定な水源の運用を休止したものである。

現在、当該配水ブロックは、三重用水を配水し、安定した運用を行っている。

【柴会長】

運用を休止して困ってはいないのか。

【事務局】

これらを休止していても水量に支障はなく、安定的に運営できている。

【水野委員】

経費の問題もあるかと思うが、運用を休止した施設は、今後どうする予定か。

【柴会長】

運用を休止して問題ないという根拠は。また、施設は再開するのか。再開するのであればいつ頃か。

【事務局】

「(表流水)」と記載している山間部の水源は、簡易水道を水道に統合して運用していたもので、施設が古い。また、山の陰しいところから持ってきていることから、維持管理を含めて費用的にはかさんでしまう。

また、運用を休止しても支障がないことについては、三重県の用水供給事業からの受水という形で水を購入しているが、十分に賄えている。施設を今後維持していく費用と受水で水を購入する費用とを比べて、どちらが今後持続的に経営できるか検討しているところであるが、再開のめどは立っていない。現在のところ、受水により支障なく運営しているため、今後廃止をしていくことになると考えている。

【柴会長】

今後の審議のために、7ページの収益的収支と8ページの資本的収支の関係性について、初めて聞くとわからないと思うので、改めて説明してほしい。

【事務局】

7 ページの収益的収支のうち、収益的収入は、水道料金が主である。収益的支出は、水道施設の維持管理費、人件費、検針費等という通常の現金の支出を伴う費用がある。また一方、減価償却費という固定資産の価値の減少分を計上する現金の支出を伴わない費用がある。

8 ページの資本的収支のうち、資本的支出は、水道施設の更新費用と企業債償還金である。資本的収入は、企業債、補助金等であるが、資本的支出に対して不足が生じる。その不足分を収益的収支の差額である利益や現金の支出を伴わない費用である減価償却費等で補填している。

【柴会長】

単純化すると、全ての費用は水道料金で賄うということである。毎年決算を行い、先ほどの説明のような収支関係はあるが、水道料金で賄えなければいずれ水道事業は破綻するということである。麻生委員から追加でわかりやすい説明をお願いしたい。

【麻生委員】

公会計的な分野はそれほど詳しくないので、一般的な話であるが、収益的収支は、水道事業の運営に当たって必要なオペレーションに関する収入支出、いわゆる損益である。支出のうち減価償却費は、過去に整備した設備の使用期間中に、実際にはお金は支出しないが、設備の使用料のような形で少しずつ費用として計上していくものである。そして、収支差額が水道事業の利益になり、この利益と実際にお金を支出していない減価償却費を貯めて、資本的収支の投資を補填する財源にしている。

資本的収支は、投資の話であり、その投資に必要なお金は、借入れや貯めてきた利益で確保する一方で、それにより確保したお金を更新や借りたお金を返すのに充てていくのかというバランスをここでは見ているという認識である。

【柴会長】

収益的収支というのは、収入が支出を超えていることが通常で、水道料金収

入で支出を賄い、長期的には余ったお金は投資の財源となる。もし、賄えていない場合は、短期的には一時的にお金を借り入れるなどするものの、返済が必要になるため、最終的には、水道料金で回収するということでよいか。

【事務局】

はい。

【柴会長】

11ページの令和8年度末の基幹管路の耐震化率49%という目標値について、なぜ100%ではないのか、また、さらに10年経過しても61%までしか進まないのかと疑問を持たれた方はいると思う。この計画している耐震化率で不安はないのか。

【事務局】

耐震化率は、本市の場合、水道管の中でも直径が大きい基幹管路について目標を設定している。現在の本市の基幹管路の耐震化率は40%強で、全国的に見ても、三重県の中でも良い数値である。

ただ、100%ではないため、市民の皆さんの満足を得られているかという点と異なると考えている。一方、水道管の耐震化は多くの費用がかかるため、財政状況も考慮し、目一杯の数値として、中期目標として6割程度を目指しているところである。

【柴会長】

他団体比較での数値は高いという説明であるが、意地悪く質問すると、その間地震は起きないという計画になる。

ただ、大災害が起きることを想定して計画を策定すると途方もなくお金がかかり、それはできないので、この程度という数値かもしれないが、先ほどの収益的収支が資本的収支を補って耐震化率を高めても、災害があったときの支出はカバーできないということになると思う。

【柴会長】

鈴鹿市の水道事業の概要として、全体としては給水のイメージ、配水ブロック、水源、送水場、配水池との管路の状況、予算収支、水道料金の概要について説明があった。経営戦略（改定版）の概要としては、投資目標、投資計画、投資試算、財源目標、財源試算の内容についてもそれぞれ説明があったが、一挙に全部理解されたかどうか分からないと思っている。

次回以降も改定版の検証の結果に質問が出てくると思うが、よろしくお願いします。

また、高等な会計的な話だけで説明されると委員の意見を封じ込めてしまうので、易しい説明を求める。

（ 休 憩 ）

事務局から「資料２ 鈴鹿市の水道事業の概要と経営戦略（改定版）の検証（水道事業）」の「３ 経営戦略（改定版）の検証（水道事業）」、「４ 経営戦略改定時と異なる点」、「５ 本日の審議会のまとめと今後の予定」についての説明がなされ、会長が質疑・意見を求めた。

《質疑・意見》

【柴会長】

項目がいくつにもまたがったので、整理すると、３の経営戦略（改定版）の検証は、水道事業の計画値と実績値の比較・分析としては、主に収益的支出に相当する支出の面では、様々なコストがアップしたことが原因という説明があった。

次に、４の経営戦略改定時と異なる点として、人口の料金収入の見直し、投資計画、投資試算の見直しについての説明があった。しかし、人口が傾向的に減少するという事実と現在の料金収入、その分析が十分に検証されたかどうかはまだ検討の余地があると思う。

最後に、本日の審議会のまとめと今後の予定として、水道事業の課題と今後の審議予定についての説明があったが、このとおり審議が進行するかどうかは

分からない。

【廣瀬委員】

30ページで、1事業年度に必要な運転資金約15億円を確保する目標を達成しているとの説明があったが、人口減少等によって水道料金収入が減少している中で、本来やるべきだった工事を先送りにしているように説明を受け取ったが、やるべきものとして計画した工事であれば、料金収入が減少しても、何らかの方法で財源を確保して進めていくべきではないかと考えるが、いかがか。

【事務局】

御指摘のとおりで、物価高騰により維持管理費が増加した分、投資費用を削減する考えも一つであるが、借金を増やして投資に回す考え方も一つであるし、補填財源がこれだけあるのならその分を投資に回すという考え方も一つである。

実際に投資費用が計画値より少なくなったのは、物価高騰、国の事業との関係での工事の遅れ、マンパワー不足など複合的な要因がある。しかし、投資は、新たな収入を得るために非常に重要なものと認識しているので、今後、計画値等を考えていかなければならない。

【廣瀬委員】

今後の投資計画についても、マンパワーが足りないということであれば、現状でできるものに見直していかなければいけないと感じるので、今後の検討をお願いします。

【柴会長】

検証の内容は、項目ごとに分析しているが、全てが連動しているため、十分足りていないのではないか。また、今後の計画を立てるときに、前回と同じような立て方をしたら、同じ問題を抱えることとなるという指摘だと思う。

資金残高の15億円を維持する、またそれが何億円まで減らせるという話の前に、そもそもなぜ企業債残高、資金残高がこの程度いるのかという説明が抜けているように思う。

支出は、物価高騰等を理由とする説明が多かったが、分析を細かくしてほしい。平均的に工事原価がどのくらい上がったのか、国の事業が取りやめになって影響がどのくらい出てきたのかといったことを、もう少し今後の検討では明らかにしてほしい。

また、一番の問題は、投資計画が予定していたほど進んでいない、耐震化率を目標に立てているにもかかわらず、お金が足りない、十分でないから結局は投資をやめたと聞こえるような説明になっていたので、今言われたような指摘に通じると思う。

そのため、次回以降の検討では、より詳細な分析データを期待しているが、いかがか。

【事務局】

鋭意努力してデータ等を揃えたいと思う。

また、将来を見通して計画をつくるのは非常に難しく、現実持っている力でどれくらいできるのか、あまり高望みしないような形で設定していきたいと考えているので、ご理解をいただきたい。

【柴会長】

そうしないとお金が余っていたら何かできる、足りなかったら何もできないという結論になって、何のための計画かということになるので、もう少し丁寧に検証してほしいと思う。

今回の道路の陥没を受けて、調査の体制はどうなっているか。

【事務局】

下水道管の話にはなるが、市が管理しているものは最大で直径約1 mであり、今回事故が起こったのは4 mを超えるような大型のものである。点検等は随時行っている。今回の事故を受けた国の調査の対象外ではあるが、今後、下水道も維持管理の時代に入るため、定期的にやっていきたい。

【柴会長】

今回の事故は、地中に空洞ができていたことが原因と思われる。技術の進歩により非破壊的な調査も可能になってきているため、そのような調査を計画に入れた方が良いと思うが、いかがか。

【事務局】

昨今はDXとしてAIによる管路の老朽化診断など費用はかかるが、いろいろな技術が発達してきている。維持管理も十分に留意しながらお金をかけて行っていきたいと考えているので、今後の料金算定を踏まえていろいろと考えていきたい。

【柴会長】

令和8年度の後10年では、そういった最新の状況も反映した投資計画にしなければならず、今回の検証のように、収入が足りなかったことで投資を削ったという検証になるようなやり方では計画と言えないので、その辺を踏まえて今後の審議会でももう少し明らかにすべきという点を含め、何か意見はあるか。

【麻生委員】

投資計画に関連して、33ページの表の工事の中で、こういった工事を優先でやらないといけないかなど、教えてほしい。

【事務局】

この表は、水道管路を除く施設の投資計画を並べている。現在、水道事業の施設の整備方針を見直しているため、多少内容が変わってくるところについては、次々回に説明することになるが、この表で説明すると、平野送水場の除鉄・除マンガン設備の設置工事を優先していく。この装置は、鉄やマンガンといった水を茶色くする元素を取り除く装置で、何とか令和10年度ぐらいまでに行っていきたいと考えている。その後の河田送水場以下については、次々回に示していきたいと考えているが、ダウンサイジングを含めて現在検討中である。

【柴会長】

今のこともいろいろと考えていくと、支出が増える項目がいっぱいある。にもかかわらず、前回の中間検証では、料金改定以降収入に関してはほぼ予定どおりだとしていた分析であり、問題があるのではないか。収入を単独で見ているから支出に回す金が出てこない、一方で支出は予定していない項目が増えてくるという話で、その関連性が議論されていないように思う。前回の料金改定で予定していたとおり収入は入っている、人口は減少しているがそれはほぼ問題ないということでもいいのか、支出が増加傾向にある中で分析する手法も加えた方がよいのではないかと思う。私の希望ということではなく、今後の審議の過程で当然入ってくるべき項目だと思って聞いていた。

【廣瀬委員】

深井戸から約85%を水道水として供給しているとのことであったが、将来ずっと水が取水できるものなのか。今岐阜県でリニアの工事に伴って水脈が変わって井戸枯れを起こしていることもある中、今後、鈴鹿亀山道路などのインフラ工事の計画によりそういう不安要素があるのか。また、現状のまま自己水源で運営するのと、三重県企業庁からの受水を増やして運営するのとどちらがよいのか教えてほしい。

【事務局】

水道水源について、昨今計画されている道路事業の影響を受ける可能性があるのではないかということであるが、その影響がないような工事を行うよう、協議を重ねている。数日間でも大きな影響があると水量が足りなくなるので、計画を進めている事業者と5年にわたって何度も協議している。現在、設計中であり、その内容を聞き取りながら、できる限り水源に影響がないような工法を選んでもらうよう協議を行っている。経費の安い工法とのせめぎ合いというところもあると思うが、協議を重ねて、将来にわたって取水ができるようなものとなるよう考えている。

また、三重県企業庁の水については、最大で18,800立方メートル受水できる計画になっている。市全体で平均1日当たり65,000立方メートルほどの水が必要であり、自己水源の地下水がないと水道水は供給できない。受水計画量を増

やすには、大規模な事業が必要になると想定され、将来にわたって水道事業を続けるには、自己水源である地下水を守っていくことが重要であるとする。

【柴会長】

先ほど指摘にあった問題点も深く考えていくと、技術的な側面と、お金がないとできないという判断は全く違う次元の問題である。それらがぶつかったときに、市として誰がどう判断をするのかについても、いずれは説明をお願いしたいと思う。そうしないと技術的にはこうすべきだといっても、お金がないからできないとなって、いつも先送りになってしまう。

【木村委員】

耐震化した水道管は、次に取り替えるまでにどのくらいの期間もつのか。

【事務局】

水道管自体、法令上は耐用年数40年とされている。

一方、技術が新しくなっている中で、メーカー等は80年～100年くらいは持つのではと話している。本市の現状としては、約40年経てばなるべく古いものから替えていくという方針で事業をしている。

【木村委員】

1回やったら終わりということではなく、これが繰り返し行われていくということではどうか。

【事務局】

そうである。土質によって悪くなる場合もあるため、1回入れ替えたらもう大丈夫ということはない。

【木村委員】

人口減少の話で、こどもが本当に少なくなったら将来心配なところがある。またこの会議に携わる前は、水は節約するものと思っていたが、使わないとお

金にならない、必要なものをそれなりに使う必要もあるんだということを学んだ。

【柴会長】

今の質問は耐震化工事をしたらどれだけ持つのかという話だったが、一般的に、あらゆる行政の例を見ると、お金がある時に施設を造り、駄目になったら大慌てをする。そこで、計画修繕的な発想を取り入れると各年度の支出が平準化されて各年度の支出も減るし、そういうことが研究者の間では必要だと言っているが、計画修繕的な発想は取り入れた方が良い。今後、経理、財務の担当だけでなく技術の担当も一緒になって議論していくことが必要である。計画的な計画をきちんとしていくと、鈴鹿市のサステナビリティがアップすると思う。

【水野委員】

水道管の入れ替えの話で、地質の影響もあるとのことだったが、そのようなデータは持っているのか。

【事務局】

基本的には、山側は土質的には良く、海側は砂地で水も湧くというような、大きく分けた状態でしか分からない。山側で直下型の大きな地震があつてずれる場合は難しいと思うが、揺れに対して山側は海側と比較すると大丈夫であると考えている。ただ、山側だから耐震化をしないということではなく、年数などによって水道管の更新等を進めている状況である。

【柴会長】

先ほどの回答は、耐震化を考えると常に最新の管に交換できれば良いが、想像もつかないほど費用がかかるから難しいという答えであった。もう少しデータを出してほしいということだったので、考えられるコストを今後の計画に入れてほしいということであったと思う。

わかりやすく言うと、ちょっとくらい揺れても大丈夫かもしれないが、震度7の地震が起きたら耐震化していても駄目になるということであれば、どの範

囲までどれくらいのコストをかけてやっていくのか、そういう答えが返ってく
ると思っている。

【柴会長】

1 回目の会議の話としては、過去の検証も踏まえて自分なりに理解していた
だけだと思う。それでもまだ決着のついていない問題点があると思うので、第
2 回以降も積極的に、何度聞いても分からないときは分からないと言ってほし
い。

5 その他

次回令和 7 年度第 1 回は、次のとおり開催予定

日時 令和 7 年 4 月 2 5 日（金） 午後 2 時から 2 時間程度

場所 鈴鹿市上下水道局 本館 3 階 第 4 会議室

6 閉会